



どくしょ あき 読書の秋ってなぜいうの

あき どくしょ てき きせつ 秋は読書に適した季節だから

あき よる なが きこう きせつ ほん よ てき
秋は、夜が長く、気候もよく、過ごしやすい季節です。本を読んだりするのに適しているから、本をたくさん読む気になりますね。

とうかした あき よる なが
「燈火親しむべし」ということばがあります。それは、「秋になると、夜が長くなるので、
とうか しょうぶつ よ てき いみ ちゅうごく かんゆ ひと し
燈火のもとで書物を読むのに適する」という意味です。これは、中国の韓愈という人の詩にあることばです。でんきのないむかし とうか ほん よ
電気のない昔は、ろうそくなどの燈火のもとで、本を読んだのです。日本では、ふるから、このことばが親しまれてきました。

あき おこな どくしょしゅうかん 秋に行われる読書週間

どくしょしゅうかん どくしょ ひろ しゅうばんぶんか こうじょう め あき
読書週間とは、読書することが広くいきわたることと、出版文化の向上を旨として、秋
しゅうかん おこな ぜんこくてき ねんちゅうぎょうじ はじ
に2週間にわたって行われる、全国的な年中行事のことで、アメリカで始まったもの
で、日本では、1947（昭和22）年から行われています。

げんざい としょかん しゅうばん かんけいしゃ どくしょすいしんきょうぎかい
現在、図書館・出版・マスコミなどの関係者による、読書推進協議会による「こどもの
どくしょしゅうかん おこな
読書週間」とあわせて行われています。

どくしょしゅうかん ほん どくしょかんそうぶん ぼしゅう しどう こうきょうとしょかん
読書週間になると、よい本をすいせんしたり、読書感想文の募集や指導、公共図書館の
けんがく おこな
見学などが行われたりします。

ちい どくしょ しゅうかん み たいせつ ほん よ
小さいころから読書の習慣を身につけることは、とても大切なことです。また、本を読
で、いろいろな世界のしを知るのも、おお たの
で、いろいろな世界のしを知るのも、大きな楽しみの一つです。（監修・田代 脩）

